

令和6年度 第1回長野市観光振興審議会 会議録

日 時 令和6年10月24日（木） 午前10時30分から正午まで

場 所 長野市役所会議室202（長野市役所 第二庁舎 10階）

出席者 委員（13人中10人出席）

事務局9人

観光振興計画進捗管理SCOP1人

1 観光文化部長挨拶

長野市では令和6年4月1日付け機構改革により、観光及び文化関連所属を再編し、観光文化部を組織した。この機構改革は、文化財課、博物館及びそれらの関連施設を教育委員会から市長部局の観光文化部へ移管することで今まで以上に文化財を観光資源として活用するなどの連携強化を図ったものである。

今年度、観光文化部が新たに取組む事業となる松代地区の文化財を活用した「松代真田家400年の歴史体験コンテンツ造成事業」は、国の補助事業の採択を受け進めている。また、インバウンドでは、大都市圏からのアクセスの良さを活かし、他市町村との広域観光連携をはじめ、トップセールスによる積極的な外国人観光客誘客の取り組みとして、昨年に引続き8月に荻原市長がタイへ訪問、観光PRを実施し、手ごたえを得ている。

市としても、コロナ後の観光需要の高まりを的確に捉え、インバウンドも含め観光誘客に積極的に取り組みたいと考えている。

本日の審議会では、長野市の観光施策が進められるよう、それぞれの専門の立場から、忌憚のない意見を頂戴したい。

2 会長挨拶

観光を取り巻く情勢は、コロナ禍からほぼ脱却してきたものの、物価の高騰など、まだまだ厳しいものと言わざるを得ない。

しかし、国内の観光需要の高まりや近年のインバウンドの急速な回復など、この機を逃すことなく、観光産業のさらなる発展につなげていくことが重要となる。

今後、委員の協力のもと、本市が選ばれる観光地となり、観光を通じて地域の活性化が図られるよう、努めたいと考えている。

3 議 事（議長：笠原会長）

（1）長野市観光振興計画の概要について

資料1 長野市観光振興計画概要版 令和4年度—令和8年度

（2）令和5年度長野市観光振興計画の指標達成状況について

資料2 令和5年度長野市観光振興計画の指標達成状況について

(3) 観光施策の最近の取組状況について

資料3-1 松代真田家400年の歴史コンテンツ造成事業

資料3-2 文化・観光DX（「川中島の戦い」デジタルコンテンツ）事業

資料3-3 インバウンドの取組

資料3-4 各地域での観光誘客の取組（実践プロジェクト事業）

(1) 善光寺「門前観光案内所」

(2) 戸隠・飯綱「夏休み体験スタンプラリー」

(3) 松代「プレミアムバスツアー」

(4) 鬼無里「テンカラ釣り」

(4) 温浴施設の利用料金について

資料4 温浴施設の利用料金について

(5) 戸隠キャンプ場及び飯綱高原キャンプ場の利用料金について

資料5 戸隠キャンプ場の利用料金について

資料6 飯綱高原キャンプ場の利用料金について

4 質疑応答、意見など

(1) 長野市観光振興計画の概要について

A委員：観光計画の重要政策4「快適で安全、スマートな観光を実現する基盤の整備」に戸隠渋滞問題を入れて欲しい。

鏡池周辺は宝光社からの一方通行で対策済だが、渋滞解消のため周遊バスを運行していた大手バス会社が今年撤退した。要は、バス会社も観光協会も資金不足に尽きる。そこで行政の協力が必要となる。市所有の中社西駐車場を有料化して財源とし、戸隠スキー場の駐車場は今後も無料、ただ、そこから奥社、中社の3拠点を巡る時速20キロの電動バスの運行を提案したい。

事務局：中社西駐車場については所有の戸隠神社、管理の長野市、戸隠観光協会などで協議しなければならない。

戸隠に限らずオーバーツーリズム対応は5か年計画で検討中の課題である。

B委員：長野市観光振興計画は観光誘致、掘り起こし、Z世代、インバウンドと当たり前過ぎて、どの市町村でも掲げるようなことばかり。長野にしかできない新しく幅広い観点が無く、これでは未来志向の話ができないというのが率直な意見である。

例えば篠ノ井には茶臼山動物園がある、そこから派生して動物園というキーワードで考えると、長野駅から車で20分のところ、城山と茶臼山に動物園がある。須坂も入ると、この狭い範囲に動物園が3つある。このような地域は全国的にもあまりない。あくまでも例としてだが、このような新しい視点の展開を期待したい。

事務局：動物園も誘客のための観光コンテンツの1つだが、市役所内での担当部署が異なる。ただ現在開催中の「川中島の戦い第二弾デジタルスタンプラリー」で実はチェックポ

イントになっている。この観光振興計画、審議会は、それぞれの立場での貴重な意見を参考に長野市の観光をどうして行くべきか、委員の意見も反映させ共に考え進めていくべきものと理解して欲しい。

B委員：結局、この会議・進行の中で、より具体的に長野にしかないものを発想していくことが重要。

C委員：地区別方針と実践プロジェクトについて。4つの地域の中の「中山間地域」に関しては、新しいこと、継続すること、どのような基準で評価しているのか。

事務局：中山間地域は、善光寺・戸隠等と比較して観光資源が豊富ではない。そこで実践プロジェクトでは地域の自然環境を活かす取り組みをしている。ただ、評価となる観光客の認知度や満足度について数値的な判断は難しいのが現状である。

会 長：長野市の中山間地域とはどこを指すのか。

事務局：浅川、小田切、芋井、信里、西条、豊栄、保科、七二会、信田、更府、戸隠、鬼無里、大岡、信州新町及び中条の15地区である。

（２）令和５年度長野市観光振興計画の指標達成状況について

D委員：資料によると、リピート率、満足度も上昇と非常にいい結果だが、このアンケートはいつ頃の実施でインバウンドも対象か。

事務局：日本の方のみで、アンケートの実施は昨年である。

D委員：現在の善光寺は日本人より外国の方が多く訪れている。コロナ収束後すぐのこのアンケートを基にした予測はできないのではないか。

会 長：アンケート方法の説明をお願いしたい。

SCOP：これまで同じ調査を行っているが、夏・秋・冬と大きく3つのシーズに分け、戸隠・松代・善光寺の3地点で対面式のアンケートを実施している。年間約1,000人分のアンケート数で、長野市の場合、入込み客数だけで1,000万人規模なので、1万分の1のデータとなる。

また、アンケートは日本語で行っているため、結果として対象は日本人となる。多言語化をするには、英語以外にも少なくともアジア圏を中心に5言語は必要となり、その後の確認も含め現場的には非常に困難な問題がある。ただ外国人のデータは国や長野県で詳しい統計があり、これを利用すれば市町村レベルの分析も可能である。

E委員：指標達成状況によると若者の満足度は高いが、リピート率が低い。満足の中身を捉え、若者向けのコンテンツ開発に活かすことで長野の強みを出すことが必要である。インバウンドに関して、市長がトップセールスでターゲット国を訪問していると聞くが、リピート率を狙うよりは、エージェントとの商談会等、まず長野に興味を持ってもらう仕掛けが、最優先ではと感じている。

事務局：今年も市長がタイの日本博でPRをし、ながの観光コンベンションビューローも現地のエージェントと商談する等、そこに手を入れ始めているところだ。実際、市長が

トップセールスでコンタクトを取った現地の旅行業者は後日長野市を訪れている。
このような広がり大切に引き続き取り組んでいきたい。

F委員：北陸新幹線が好調である。秋の3連休、対前年比で、敬老の日107%、秋分の日134%、スポーツの日119%といずれも増加という状況にある。

会 長：小布施ハイウェイオアシスは、10月の3連休は例年より売上げが多かった。インバウンドは来ない場所なので日本人が動いていることになる。さらに10月に入ってから長野電鉄は特急の運行を止めたにもかかわらず、定期以外の乗車が9月よりも10%以上伸びている。これはインバウンドが占めている。スノーモンキーは30年比で外国の方が上期だけで160%増、本当に増えていると実感する。

B委員：今のインバウンドとは、どのエリアのことか。

事務局：長野市来訪者の令和5年のデータになるが、台湾、中国、香港、タイ、シンガポール、アメリカ、オーストラリアの割合が多い。一番多いのは台湾で、これはコロナ前から変わらない。

G委員：松代の入口にある「ロイヤルホテル長野」が、フランス資本の「メルキュール長野松代リゾート&スパ」にリブランドした。客層はインバウンド中心だが欧米の方が多い印象。そこで松代観光協会では、英語の案内を作成、職員が英語の勉強を始め対応しようとしている。

(3) 観光施策の最近の取組状況について

H委員：鬼無里の「テンカラ釣り」だが、地元にながら今初めて知った。今年初めての開催で30名の参加はかなりの成果だけに、もっと周知できたのではないか。SNSを確認すると長野市の観光関係、Facebook、Instagramにしかなく、鬼無里観光振興会にすら情報が無いことは残念である。

次に冬、白馬と善光寺をバスでつなぐという企画。おそらくオリンピック道路の利用だと思うが、中間地点で乗り降りすることはできないか。一方、鬼無里経由で国道406号線を利用すれば、「鬼のいない里、鬼無里」という地名に興味を持つインバウンド客の乗車も期待できると思うが、ルートは決まっているのか。

事務局：現在詳細は決まっていないが、基本的にはオリンピック道路を利用する直行便を想定している。

I委員：長野市の観光振興の着眼点について。

福井では新幹線が開通し市を挙げ、とにかく恐竜でまちづくりをしよう、活性化しようという観光に熱気がある取り組みをしている。あらゆるところに恐竜が氾濫しており、駅を降りると福井は恐竜だとわかる。長野の場合は、パッと結びつく観光を連想できるものが弱い、力強く引っ張り込むぞという意欲が感じられない。例えばキャッチフレーズ、「神と仏と武士の道」が長野市の観光ツールとなるのではないか。神が戸隠、仏が善光寺、武士（もののふ）が松代、そういう観光の大きな串刺しを一本作

った上で、共通する現代の日本人の精神構造の基本が、この武士道であり、仏教であり神道であることを認識できる。その3つを1度に体験できるのは、全国的にも、ほぼ長野市しかない点に注目すべきである。

2つ目は、アメリカで放送された『SHOGUN 将軍』という時代劇テレビドラマが、エミー賞18部門を受賞したことである。将軍は武士道、武家社会の世界。これを聞いたときに、松代の出番だと思った。今回はアメリカだが、今後、世界的に武士道が興味深く取り上げられるのではないか。その最前線で松代はいくつかの展開を仕掛けることができるのではないか。例えば武家屋敷で剣道、華道や茶道を体験する武家社会を深く体験できるアクティビティはどうか。

3つ目は、NHK「クローズアップ現代」という番組について。今世界の美食家は、日本の大都市から地方に流れている、今までは富裕層と言われる50代以降が美味しいものを食べる贅沢をステータスとする傾向にあったが、今は違う価値観で20代30代が中心に動いているという特集である。ポイントとなる言葉が食材・習慣・伝統・歴史の4つで、要は「郷土料理」のことである。郷土料理をフレンチやイタリアン、もちろん日本料理と、視点を変えた新しい趣向で提供することで、もっと深く日本の地域に根づいたものを食べてみたい欲求の新しい層に向け、我々、長野市にもチャンスがあると考えます。

会 長：例えば松代には多くの史跡があり、魅力的だが、何故観光客が増えないのかとの話題に、食べ物が無いからだとの声が多かった。だから戸隠に蕎麦があるのは強みである。観光地にとって食は大事であるからこそ、民間が力を発揮しなければならない。

(4) 温浴施設の利用料金について

J委員：指定管理者制度は業者が自由に料金を変えることは不可能なのか。

事務局：定管理者が勝手に料金を設定することはできない。指定管理者制度は市の利用料金制という言い方ができ、長野市が運営を委託し徴収した料金が、指定管理者の収入になるということである。ただ、その料金については条例で上限が決められていて、その中で、指定管理者が長野市と協議をして、社会情勢などを考慮し金額を検討し、決定をしていくことになる。

J委員：その協議は1社単位なのか、それとも全指定管理者が集まって協議するのか。

事務局：1つの施設を1社が管理しているので、1施設1社ごとの協議となる。指定管理者から新しい料金案の提示があれば、市は協議する。その改定料金は条例の範囲内であることが重要である。

B委員：その条例はいつできたものか。

事務局：それぞれの施設ごとにその時つくった条例がある。長野市、旧長野市、合併町村がそれぞれで作った条例が現在長野市に引き継がれている。金額の詳細まで記載されているので、一度見直すべきと必要性を感じている。

(5) 戸隠キャンプ場及び飯綱高原キャンプ場の利用料金について

A委員：戸隠キャンプ場はコロナ期間も密を防ぐ点で利用者が増えた実績もあり、質もいいので料金を上げていい場所だと考える。ただ、昨年、スキー場のリフトを利用し、戸隠でしか見ることができない秋のパノラマの景色を眺めることができる企画「秋山リフト」が大好評だったにも拘わらず、今年実施できなかったことは残念である。財源となる補助金の確保ができなかったと聞いたが、オールシーズン戸隠の自然をメインにした集客企画を続ける観光地であるべきである。

B委員：この審議会は基本、お金が無いことを前提で話をする場なのか。本当はもっと必要だが、条例の上限があるので仕方がないと諦めている。補助金が無いからやりたいことも叶わないという話ばかり。長野市は財政的に厳しく、観光にお金を回せないことありきで、今後の話をしなければならないのか。それとも、そこをやっぱり上げていく思考なのか。そこが重要になると思うが、どちらか。

事務局：もちろん限られた財源の中ではあるが、市としても必要なものには投資すべきだと考えている。決してお金がない前提ではない。補助金が無いからではなく、それぞれの指定管理者に稼いでもらうことで、様々なサービスが向上していく、その中で補助金の申請や、時代に見合った料金改定を考えることは手段のひとつと捉えている。地元が積極的に施設運営や観光振興も先導していく中で、民間が主導権を持ち、長野市も協力して地域を盛り上げて行くのが理想である。

B委員：指定管理者に全部お任せではなく、行政と民間が会する、この審議会では各所に反映できるような意見を求められていることでいいか。

事務局：その通りである。

B委員：財源は承知の上で、一般公募を入れての会議は、今迄に無い視点が重要になる。新しい何かという意見を柔軟に求めていくことで、それは今まで無かったという発見になることがこの会議の正しいあり方だと思う。

5 その他

事務局：観光を通して、地域を盛り上げる為の意見を頂戴できた。この計画にとどまらず、柔軟な新しい発想は貴重である。皆様には、観光振興審議委員として、引き続きお力添えを期待したい。よろしくお願いします。

6 閉 会